

PEOPLE FILE 028

この人に注目



横浜アーバンデザイン研究機構 代表委員

北沢 猛

Takeru Kitazawa

1953年長野生まれ。東京大学都市工学科卒業後、横浜市都市計画局都市デザイン室長などを経て、現在、東京大学大学院新領域創成科学研究科教授（空間計画）・工学系研究科（都市デザイン）、横浜市参与など

横浜に暮らして約30年になる。北沢猛氏は「この街は離れ難い」と言う。横浜市の職員として過ごした時代からずっと、都市づくりにかかわってきた。現在は東京大学教授であり、NPO法人アーバンデザイン研究体の理事長を務める。今年4月に、発足したばかりの「横浜アーバンデザイン研究機構（UDCY）」の代表委員に就任した。

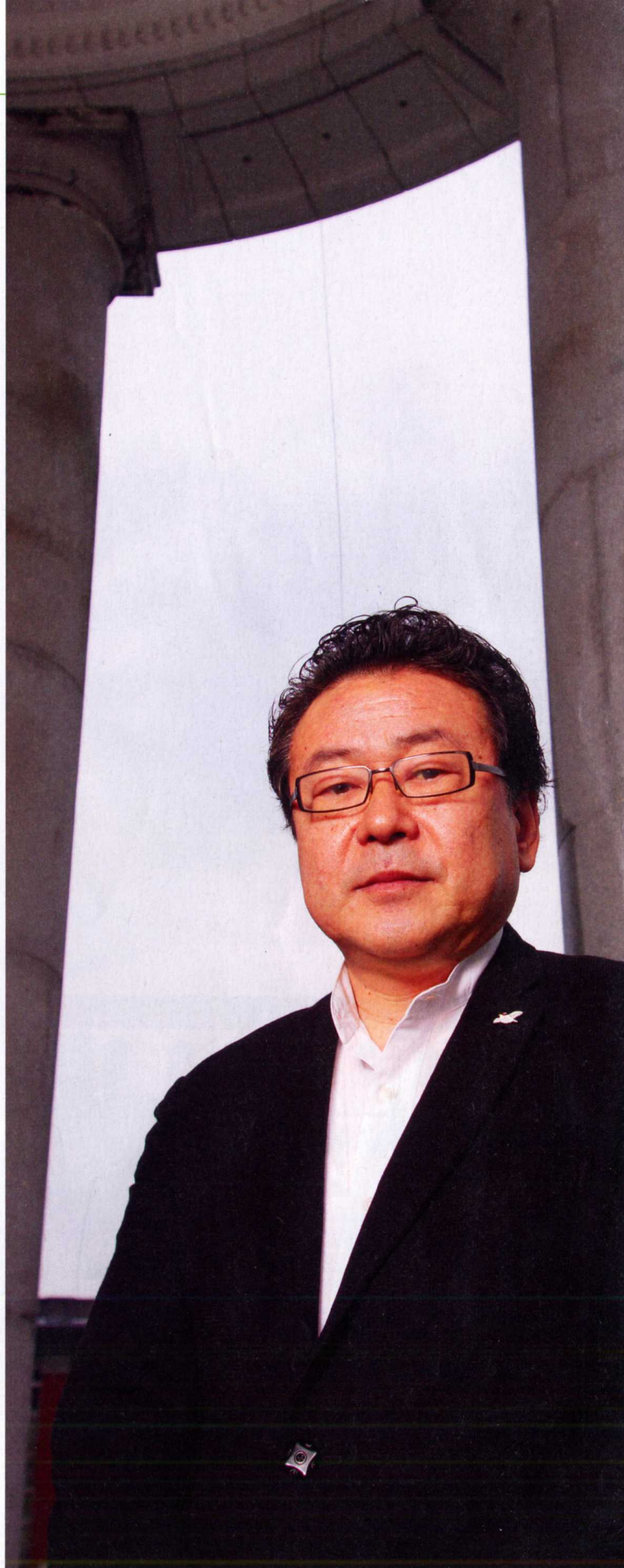
大学や自治体、企業、NPO——様々な分野の専門家が連携して、「未来社会の設計」を考えるのがこの組織の目的だ。人口の減少や環境問題など、日本の都市はどこも大きな壁に直面している。「成長期だった時代は、日本の都市はうまく機能して乗り切ってきた。しかし、現在まさに直面している低成長期に対処する仕組みができていない」。この問題を解決するために、横浜をフィールドに調査研究をしようという取り組みだ。

「横浜は産業や生活が多面的で、ここで調査研究したことは、日本のどの都市にとっても応用が利くはず。日本だけでなく、アジアの都市にとっても意味のあることだと思っている」。昨年、学生から企業の研究者まで、年齢も幅広くこうした問題に関心のある人たちが約80人ほど集まって、これまで各自が取り組んできた事柄について発表する機会を設けた。その成果は「未来社会の設計 横浜の環境空間計画を考える」（BankART1929）という本にまとまった。

こうした活動が、やがて全国に広がっていくことを目指している。

都市問題

横浜をフィールドに、これからの都市像に希望を描く



文=佐野 由佳（フリーライター） 写真=天満 眞也

